

中国社会科学院青年研究者代表团第2陣（招へいプログラム）の記録 （対象国：中国，テーマ：グリーン経済）

1. プログラム概要

2017年10月15日から10月22日（7泊8日）まで、中国社会科学院に所属する青年研究者24名が来日し、グリーン経済をテーマとするプログラムに参加しました。一行は、環境省によるグリーン経済に関わる施策のブリーフ、東京大学公共政策大学院及び京都大学大学院地球環境学堂で日中双方の研究発表、芝浦水再生センター・品川シーズンテラス及び京セラ（株）、（公財）地球環境産業技術研究機構の訪問などの活動を行いました。また、各所で関係者との交流を交えつつ、日本のグリーン経済について、行政施策、研究活動、企業の取組等、幅広い観点から学びました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について代表者が発表しました。

【訪問地】 東京都、京都府、大阪府

2. 日程

- 10月15日（日） 羽田空港から入国、パナソニックセンター東京視察、
来日時オリエンテーション
- 10月16日（月） 環境省ブリーフ、国会議事堂視察、東京都庁展望台参観、歓迎会
- 10月17日（火） 東京大学公共政策大学院訪問、芝浦水再生センター・品川シーズン
テラス訪問・視察
- 10月18日（水） 京都へ移動、東寺参観、京セラ（株）訪問、温泉旅館宿泊
- 10月19日（木） 京都大学大学院地球環境学堂訪問、
（公財）地球環境産業技術研究機構訪問
- 10月20日（金） 大阪城、清水寺、三十三間堂参観、友禅染体験
- 10月21日（土） 東京へ移動、皇居二重橋参観、商業施設視察、
報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）
- 10月22日（日） 羽田空港から出国

3. プログラム記録写真



10月16日 環境省ブリーフ（東京都）



10月17日 東京大学公共政策大学院訪問（東京都）



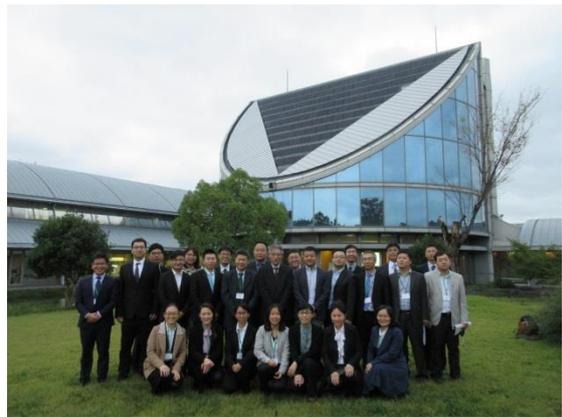
10月17日 芝浦水再生センター視察（東京都）



10月18日 京セラ(株)訪問（京都府）



10月19日 京都大学大学院地球環境学堂訪問（京都府）



10月19日 (公財)地球環境産業技術研究機構訪問（京都府）

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 中日国交正常化 45 周年となる 2017 年に中国社会科学院青年研究者代表団に参加できたことは、私にとって非常に意義のあることだ。これまで日本への旅行を計画したことがあり、日本へ行ったことがある友人に日本について話を聞いたこともあるが、ずっと良い訪日の機会がなかったのが、今回の代表団はいいチャンスだった。8 日間の日程で東京、京都、大阪の 3 都市を訪れ、グリーン経済というテーマのもと、大学院や研究所、同テーマに取り組んでいる代表的な企業を訪問でき、収穫の多い旅になった。

日本滞在中で気づいたことを携帯にたくさんメモしている。日本人の教養の高さとマナーの良さは、確かに私たちが学ぶべきところだ。例を挙げると、公共の場所ではがやがや騒いでいる人がいない、ポイ捨てをしない、痰を吐くなど悪しき習慣がない、コンビニやスーパーのレジ、地下鉄のホームではきちんと並ぶ。いずれにおいても個人の空間を大切に、秩序が保たれているのだ。車の運転もマナーが良く、クラクションの音を聞くこともなければ、割り込みをする車を全く見かけなかったことも驚きだった。

グリーン経済の発展については、企業の取り組みでいうと、京セラのハイレベルな汚水排出の仕組みが印象に残っている。芝浦水再生センターの汚水処理と資源の再利用の方法、周辺環境の改善、省エネ・二酸化炭素排出量を削減したオフィスビルは、参考にできるものばかりだ。また、代表的な産業研究機関として、排出削減した二酸化炭素の貯留やバイオテクノロジーに力を入れている地球環境産業技術研究機構を訪問した。大規模な資金の投入は、グリーン経済の発展に対する日本政府の強い決意と自信の表れである。一般市民の方々と触れあうことのできた生活の分野では、水に溶けるトイレットペーパーや低排出ガス車、ホテルの入り口に設置された傘袋の器械などが印象的だった。日本は技術開発や環境保護の意識において、いろいろなところで進んでいると言える。

中日は友好的な隣人だ。小異を残して大同に就き、ともに学び合い、発展していくべきであり、これこそ両国がともに抱いているビジョンだ。

機会があればもう一度日本に来たい。日中友好会館のもてなしに感謝する。

◆ 中日国交正常化 45 周年のこの年に、幸い今回の訪問団に参加することができ、東京大学、京都大学、環境省、東京都下水道局の施設を訪れて、友好的に学術面や経験値の交流を行った。中国は発展途上の国として、多くの分野で日本に学ぶ必要がある。例えば、都市の下水道システムの計画・建設や、都市の環境汚染対策、厳格かつ実現可能性のある関連の政策・法律の制定などである。これらの分野は私自身が従事している建設工学と都市計画という専門分野と関係があり、これからの仕事にとってとても良い参考になった。しかし、中国の発展途上の国情と、工業化のプロセスが完了した日本の国情では違いがある。例えば、中国では、老朽化した建築物には改築や修繕を施して一新させるのが普通だが、日本は地震が多いため、古い建物は取り壊してから再建する方法が一般的だ。両国のやり方にはそれぞれ利点と欠点があるが、国情に合わせて策を決めている。中日両国の建築分野での交流が盛んになり、互いに補い合って発展していくことを願う。今回の訪問で印象的だったのは、日本の建築物の耐震

措置だ。中国の建築設計業界も参考にできると思う。

◆ 一週間の日本訪問が終わろうとしている。日本側が手配してくれた学术交流と視察を通して、日本の経済や社会の発展（特にグリーン経済とエネルギー戦略）について認識と理解を新たにした。日本はエネルギー供給構造の調整を進めており、環境整備やグリーン経済の推進において、我々が学ぶべき進んだ理念と経験を持っている。

私自身の研究分野と結びつけると、IT技術の急速な発達にともない、グリーン経済の概念や範囲も拡大している。インターネット産業の発展が、ある程度現在の経済発展モデルに影響を与えて、経済構造の転換を促進しているのだ。日本側との交流を通じて、日本のIT技術の応用は比較的進んでいることがわかった。特に、地球環境産業技術研究機構が行っているIT技術を用いたCO2排出の研究が強く印象に残っている。

今回の日本訪問は、非常に印象深く、実りの多いものだった。帰国したら、引き続き関連の研究を進めたい。日本側の専門家たちとこれからも交流を続け、いつか一緒に研究する機会があれば良いと思っている。

◆ 大学院の研究がとても高度だ。有名な東京大学と京都大学を訪問し、日本の最高学府が研究している分野と最新の研究内容を知ることができ、学術研究の分野で大きな収穫があった。

グリーン経済についても、日本は最先端の技術を数多く有している。下水処理施設や専門研究機関を訪問した。多くの先進技術を持っている日本だが、取り組みへの着手も早く、高度経済成長期に発生した環境汚染問題をよく解決できていると思った。中国が日本から学べる部分がたくさんある。

最後に、文化伝統の保護について。日本は積極的に日本固有の文化を守り、さらにそれを活用することで、効果的な文化遺産を推進している。これも中国が参考にすべき点だ。

◆ 日本のグリーン経済は企業レベルでの推進に成功している。大企業が積極的に規定のレベルを上回る対策をとっており、環境を犠牲にすることなく、企業の生産力を守っている。日本企業の社会的責任感を示し、社会全体のグリーン経済への取り組みの良い模範となっている。日本政府による環境保護政策と法律は、ある特定の分野において、企業のグリーン化の取り組みに後れをとっている。日本の民間企業の環境保護意識は高く、日本国民についても、ゴミ分別のやり方などから、その意識の高さが見て取れる。日本の社会はグリーン経済や環境保護の実現に向けて「下から上へ」努力するある種のモデルとなっている。中国が学ぶべき取り組みがたくさんある。

5. 受入れ側の感想

◆ 大学関係者

中国社会科学院が当大学院との交流を希望してくださったとのことで、光栄に思っている。教授の発表に対して皆さん積極的にコメントや質問をしていて、参加者の関心の高さを感じた。活発な意見交換ができてよかったと思う。セッションが終わった後も先生方と熱心にお話されている代表団の方の姿が印象的だった。

◆ 自治体関係者

講義や現場視察時における皆さんからの発言や質問等、意欲的に学ぶ姿勢を感じることができ、良い交流ができた。また、日本ではスタンダードとなっている取組からも海外では学ぶべきところがあるということは、我々にとって良い気付きとなった。

◆ 企業関係者

参加者の皆さんが非常にまじめに、熱心にプレゼンテーションや展示説明を聞いて下さり、対応した社員も甲斐があったと喜んでいる。質問もたくさんいただき、皆さんの真摯な姿勢が感じられた。

◆ 研究機関関係者

この度のご来訪を受け入れさせていただいたことで、当機構の研究内容を中国の有望な若手研究員の方々にご紹介することができ、また僅かながらも日中友好の促進にお役に立つことができ、良かったと思う。

6. 参加者の対外発信

<p>10月30日/中国社会科学院日本研究所 Web サイト</p>	<p>12月1日/中国社会科学院 Web サイト</p>
 <p>日本研究所相关研究人员参加中国社会科学青年学者 访日代表团</p> <p>作者：田正 来源：时间：2017-10-30</p> <p>10月15日至10月22日，中国社会科学院日本研究所经济研究室田正助理研究员参加了2017年第二批中国社会科学青年代表团。</p> <p>此次访问的主题为“绿色经济”，围绕这一主题，本次访日团深入了解了日本的环境政策、绿色经济、企业环保措施等问题。</p> <p>访问团首先前往日本环境省，从宏观层面了解了近期日本的环境政策措施，如全球气候变暖对策以及“环境研究与环境技术开发推进战略”等。此后，访问团与日本东京大学、京都大学的师生就日本的环境问题展开了深入交流。此外，访问团还实地考察了芝浦污水处理中心、京瓷集团、地球环境产业技术研究机构等企业部门，从微观层面调研了日本企业的环境保护措施和具体方法。</p> <p>中日两国在绿色经济发展方面具有广泛的合作前景，日本的环境经验对处于转型期的中国而言具有参考价值。</p>	<p>2017年中国社会科学青年学者 代表团访问日本</p> <p>2017年12月01日 08:46 来源：《社科院专刊》2017年12月1日总第418期 作者：</p> <p>本报讯 应日本日中友好会馆的邀请，作为JENESYS2017项目的一部分，近日，2017年中国社会科学青年学者代表团一行24人访问了日本。此次访问以“绿色经济”为主题，考察日本绿色经济的“官学研”系统，旨在让代表团成员从宏观层面上了解日本绿色经济相关的环境政策，以及相关研究机构的研究重点和进展、企业在绿色经济方面的具体举措。</p> <p>访问期间，代表团前往东京、京都、大阪，分别对环境省、东京大学、京都大学、芝浦污水处理中心、京瓷株式会社、地球环境产业技术研究机构等进行了考察，并围绕“绿色经济”这一主题展开了深入交流。</p> <p>代表团成员纷纷表示，通过考察加深了他们对日本绿色经济发展的理解，同时对日本“官学研”系统在绿色经济方面的举措以及日本社会、文化等方面的发展情况也有了更深入的认识。他们认为，在以绿色发展作为五大发展理念之一的背景下，比较处于工业化进程的中国和已完成工业化进程的日本，对于中国迎接提高经济效率和实现环境友好的双重挑战具有一定的借鉴意义。</p> <p>责任编辑：梁瑞</p>
<p>グリーン経済をテーマに日本の環境保護政策、企業の環境保全の取り組みなど、深く理解できた。日本の環境保護の経験は中国が参考にできるところがあり、グリーン経済発展の方面で両国の幅広い協力が期待できる</p>	<p>視察を通して日本のグリーン経済発展について理解を深めたと同時に、日本の社会、文化等、多面的に認識できた。中国が経済効率を高めると同時に環境保護を実現するため、すでに工業化を達成した日本から参考にできるところがある</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<ul style="list-style-type: none">・環境省、東京大学、京都大学、京セラなどを訪問して得られた収穫についてまとめ、グリーン・イノベーションや環境経済に関する自身の研究に役立てたい。・関連機関の最新の動きを注視し続けたい。・今回の活動について積極的に文章にまとめ、友人や同僚たちに日本での経験や学びを伝えたい。	<ul style="list-style-type: none">・ゴミの分別、環境保護や防災・緊急対応に関する意識や具体的措置について、日本人から学びたい。・家族や友人に日本で見たこと、聞いたこと、特に自然の風景や人々の暮らし、政治、都市建設などについて伝えたい。・日本の歴史や文化についてもっと勉強し、中日友好交流の実践者となるべく努力したい。